

# 鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

日本には蚊の駆除を目的に導入され、1970年代に急速に広まりました。鹿児島県では重要防除種、環境省では特定外来生物に指定され、島嶼を含む県内各地で確認されています。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがあり、奄美大島ではミナミメダカ個体群を駆逐した例があります。生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。自己の管理する池や水田・水路などで生息を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、できれば安楽死させて下さい。

## 1 基本情報

分類	
目・科名	カダヤシ目カダヤシ科
種名(亜種名)	カダヤシ
学名	<i>Gambusia affinis</i>
環境省カテゴリー	特定外来生物 重点対策外来種
県カテゴリー	重要防除種
由来	国外由来外来種
侵略的外来種番付表	小結(本土)
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100
侵入・定着の状況	
自然分布域	北米
県内初報告	不明
県内への侵入の経緯	県内への侵入の経緯は不明。日本には1913年と1916年に蚊の駆除を目的に導入され、1970年代に急速に広まった
県内の侵入分布	島嶼を含む県内各地
全国の侵入分布	福島県以南の本州、四国、九州、沖縄、小笠原
生態学的特性	
生態	食性は雑食性で、落下昆虫や水生昆虫、動植物のプランクトンを食べる。 メダカに比べて攻撃性が強い。低温には弱く、水温18℃以下では活動が鈍る。
形態	体長はオス3cm、メス4.5cmほどで、メスのほうが大きくなる。 オスのしりびれは交接器になる。メダカに似るが、体が青っぽく尾びれが丸い。
繁殖形態	卵胎生で、メスは卵ではなく直接子魚を産む。 産卵に水草などを必要としない。
生息環境	流れの緩い河川下流や用水路。北米の半砂漠地帯では42℃の温泉中にも生息する。
特記事項	特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。



2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。胎生種で繁殖力が強く、在来種を駆逐するおそれがある。奄美大島ではミナミメダカ個体群を駆逐した例がある。
県内で特に予想される被害	小型の魚類、甲殻類、水生昆虫などの捕食。奄美大島ではミナミメダカ個体群を駆逐させた。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①甲殻類、水生昆虫などの捕食。小型の魚類の駆逐。 ②蚊の駆除を目的に導入。
3 対策	
カダヤシを見つけたら	生きたまま運搬することや飼育することは外来生物法で禁止されています。自己の管理する池や水田・水路などで生息を確認したら、水系を介して分布が広がらないように注意し、できれば安楽死させて下さい。
見分け方	カダヤシはしりびれの長さが短く、尾びれが丸い。類似種のミナミメダカは、尾びれが角張っており、しりびれも広い。
見かけやすい場所・時間	活動時間は日中。水田地帯の流れのない用水路や流れの緩やかな用水路。
防除方法	タモ網などによる防除。
防除の取組事例	—
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース <a href="https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50230.html">https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/50230.html</a> 京都府外来生物データ <a href="http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html">http://www.pref.kyoto.jp/gairai/data/index.html</a> Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 <a href="http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/">http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/</a> 瀬能ほか(2008)日本の外来魚ガイド。文一総合出版社。東京